

タウンミーティング議事録

- 1 日時
令和8年1月31日（土）10時00から12時10分まで
- 2 場所
流山市役所
- 3 出席者
 - (1) 特別職等
井崎市長、石原副市長
 - (2) 部局長等
若林総合政策部長、吉野市民生活部長、伊原健康福祉部長、
富安子ども家庭部長、深津経済振興部長、伊原環境部長、
梶まちづくり推進部長、染谷土木部長、
南学校教育部長、石川生涯学習部長
 - (3) 事務局
司会 影山秘書広報課長
秘書広報課職員
- 4 来場者数
12名（お子様2名）
- 5 質疑回答
裏面のとおりに

Q 市民

流山を愛する市民の1人です。

3年前にTBS団地の夏祭り実行委員長、3ヶ月前に常盤松中学校1989年卒業同窓会実行委員長をしております。同窓会の際には井崎市長より祝辞のコメントをいただき、誠にありがとうございました。この場を借りてお礼を申し上げます。

今回私の方から御提案したいのは電力の再エネ、流山が取り組んでいる再エネについて御意見をさせていただきたいなと思っております。

流山市は再エネ防災にも積極的に取り組んでいると思います。市内全小中学校や市の施設に太陽光パネルを設置するなど、先鋭的な活動をしていると思います。

しかしながら、市内最大出力を誇る流山クリーンセンターの廃棄物を焼却したバイオマス発電については、東電に売電しているのみになっているかと思いますが、まずその点今どのような売電状況なのかお答えいただきたいと思います。

東電に売電しているという前提のもとで御説明、御提案させていただきます。通常ですと東電に売電して、売電収入だけが市に残る。これもとても素敵なことではあるんですが、さらにその売却した電力を安く買い戻して、市の施設や市民に供給する方法がございます。経済産業省でも認めている再生可能エネルギー電気特定卸供給という制度がございまして、これを利用することで、流山産の電気を流山で使うという地産地消を謳うことができます。

通常、電力の地産地消と聞きますと電力の装置や送電ケーブルなど、費用がかかると思われがちですが、こちらは書類の手続きだけでできます。ノーコストでできる話です。新電力の協力が必要となるんですが、その新電力も入札で競わせて、権利を得るような形をとれば、コストメリットもあって、市内の再エネ普及に一役買うことができるのではないかと考えております。

また、国土強靱化法に基づいてのお話ですが、非常用電源としての活用も可能です。太陽光は日中しか発電することはできませんが、バイオマス発電が稼働させられれば、1日中発電が可能な施設です。緊急時に流山に火力に近いバイオマス発電所があるというのは、相当な

メリットであると思います。

細かいスキームにつきましては、この場では割愛させていただきまして、もし一案としてご一考いただけるようでしたら、私の方で資料を作っているものがございますので、それを後程お渡しいたしますので御検討いただければと思います。

流山クリーンセンターのバイオマス発電を利用した電力の地産地消、あとは非常用電源としての活用につきまして、御検討いただければと思いこの場で発言をさせていただきました。

A 環境部長

御提案ありがとうございます。

電気の地産地消ができれば本当に素晴らしいなと思っております。

今のクリーンセンターの状況についてですが、皆さんがいらっしゃいますので簡単に説明だけさせていただきますと、ごみを焼却した熱を使って発電をしております。その発電した電気を売電して、それを収入として得ているということをやっております。

現在は、クリーンセンター基幹的工事といまして、中の設備の工事を3年かけてやっております、一時ほど発電の量というのは減ってきてはおりますが、発電した電気は、クリーンセンターの中で自家消費としてまず使っています。残った分については、売電をしているという状況となっております。

私は、電気の専門家ではございませんが、スキームを後で御説明いただけるとのことでしたので、私も大変興味を持っております。電気が有効活用できれば、それが市民にとっても私達にとってもいいことだと思っております。ぜひ、後ほどどこかで時間を作っていただいて、私も含めてクリーンセンター職員と一緒に意見交換ができれば大変嬉しいなと思っております。

Q 市民

今日は参加させてもらいありがとうございます。

2年ぐらい前なんですけども流山市に都内から引っ越してきました、今子育て中で色々近くを散歩したりする中で、気になったことだったりそういうことをお話できたらと思います。

いただいた紙にも書いたんですけども、大堀川水辺公園の近くに住んでおりました、用水路が近くにあるって、ごみが用水路の中に結構落ちているのが気になるんですね。普段は子どもたちなどがベンチに置いていっているゴミとかが、いつの間にか綺麗になっていて、清掃してくださっている方もいると思うんですけども、やっぱりその水の中というか、用水路のところがちょっと見えるんです。水の中が。やっぱりたくさんのごみが目立つ。だからどうしても拾いたくなっちゃうんです。動物も亀とかもいたりするので、やっぱり生態系のためにも、どうにかならないかというので、書かせていただきました。

今日、他にも簡潔に気になった点がありまして、向かいにこぼと保育園というところがありまして、その道路にちょっとひびが入っているんです。歩道のところに。私の勘違いじゃなければ、前はこんなひびがあったっけというぐらい、歩道のところに大きいひびがありまして、ベビーカーを押しているの、地盤や道路の補強をもしお願いできたらやってもらいたいなと思ったのと、また、難しいかもしれないんですけども、児童館とか行く中で、公園と道路が隣接している公園というんですか、ボール遊びをしている子どもたちが多くて、よく道路にボールが飛んでいっているのを見て、危ないなとか、もう本当に道路の隣に公園がある状態なので、そういう公園が2つぐらい見受けられまして、これは流山市に限ったことではないと思うんですけど、うまくどうにかできたらいいなという気持ちで質問させていただきました。

A 土木部長

1点目の大堀川水辺公園付近の用水路は、防災調整池といひまして、千葉県が管理している利根川の水を入れて大堀川のところの一部水位を調整する調整池ということで、過去に作りました。

今おっしゃられたその用水路というか、池の中の管理につきましては、千葉県が管理するようになっていまして、市が管理する部門は、土木部では、河川区域といわれるその水辺に入らないようにする柵の管理や公園以外の通路を土木部が管理しています。

また、まちづくり推進部では水辺公園の管理を行っています。それぞれまちづくり推進部みどりの課や土木部河川課、そして千葉県とい

うことで、管理区域が分かれています。

実は私も先日、大堀川水辺公園の付近を確認させていただきましたところ、やはりごみが点在している状況は確認できましたので、実際にお散歩されている方からもお話を伺うことができました。小動物等の成育環境に関しても、草刈の手順で小動物が実はいなくなってしまうという貴重なお話を聞きましたので、これを機に、積極的に千葉県にごみの回収や、水の水質というは徹底した管理をお願いしてまいりたいと考えております。

そして、2点目のこぼと保育園前の歩道の状況につきましては、道路パトロールは常に車道をメインにやっておりますが、地域住民の方から寄せられる状況が非常に大切になりますので、状況をまず確認させていただいて、道路のひびについて、専門用語でいうとクラックというんですけども、歩道のつまずきというのは非常に状況としてよくないので、まずは、歩道部の穴埋め等の対応はすぐに行いたいと考えております。

3点目の交通安全ですが、児童館や保育園等、お子様が常に集中的に集まられるところ、公道で最近よくお散歩されている様子も当然見受けられますので、そこは生活道路になるんですが、交通対策というのは非常に重要な課題だと思っております。

今年の秋頃に警察庁から法定速度の道路交通法の改正がございまして、生活道路、いわゆる幅員6メートル未満の道路につきましては、法定速度30キロの規制に今後変わってまいりますので、警察の取り締まりが大変になりますが、市ができる安全対策として、電柱幕に「こども飛び出し注意」だとか、或いは、あまり書きたくはないんですけども、路面に「こども飛び出し注意」というのも、皆さんの声をいただき、自治会や地域の皆さんからのお声としていただければ、市は対応させていただきたいと思っております。過去に、地域の方のお一人のお声を聞いて、市が対応したところ、道路の前の家の方ですけども、私はそんな要望していないし、そもそもうちの前の路面に書くのはなんだといった意見も過去にあるものですから、勘案して、地域の皆さんの声として、もし自治会に入っているようでしたら、自治会で要望を上げていただくというのが一番、我々としても動きやすいですし、対応しやすいのかなと思っております。

A まちづくり推進部長

3点目の公園でのボール遊びの話ですけども、基本的に公園はどうしても公道に面している状況にあります。市内では基本的には、ボール遊びは禁止しておりません。使える状況ではあるんですけども、もちろん危険なボール遊び等については、御遠慮くださいということで周知をさせていただいているところです。

ボールが外に出てこどもが飛び出したりとか、そういうこともありますので、公園によって、情報をいただいたところについては、ボールが外に出ないように公園の周りにネットを張ったり、植栽をして、ボールが外に出ないように対応させていただきますので、もし何かお気づきの点がありましたら、担当のまちづくり推進部のみどりの課というところがありますので、そちらにお問い合わせいただければ、すぐに対応させていただきますのでよろしくお願いします。

A 市長

少し補足をさせていただきます。

今のお話など道路の関係もタウンミーティングまで待っていただかなくても、普段から担当へ電話でもメールでも御連絡いただければ、どんどん対応いたしますので、この無作為抽出型のタウンミーティングは一年に2回ぐらいしかしておりませんので、お気づきの点はすぐ御連絡いただければと思います。

Q 市民

お時間ありがとうございます。

私は、こちらに引っ越してきて8年目になります。駅の近くに家を買ってという形で住ませていただいております。

こどもが2人おりまして、3歳、2歳の時に引っ越してきて、今はもう小学校の高学年というところで、日本で一番児童数が多い小山小学校というところに通っております。この8年間で色々子育てをしていく中で、いろんな施設の充実だとか流山セントラルパーク駅の付近もそうですし、駅前もどんどん開発され、どんどん住みやすくなっているなど思っております、まずは感謝申し上げます。

自治会の方も去年班長をやっておりまして、色々な状況、ごみの問

題とかに携わらせていただきました。

その中で3点ございまして、1点目は図書館とか本の充実の話、2点目が自習環境とか大人も含めた生涯学習のところ、3点目は流山おおたかの森駅前の交通マナーのところということでお話しさせていただきたいと思っております。

1点目なんですけれども、やはりこどもが大変多い状況になっている中で、図書館や本のところが、おそらく他の自治体よりも足りないということが起きているのかなと正直思っております。

流山おおたかの森駅の近くには図書館はございまして、江戸川大学のところで大人は借りられる、あとは駅前のピックアップセンターでネット注文をして時期に応じて借りられるというところになっているかと思えます。

今までもどんどん発展していただいているとは思っているんですけれども、幾分こどもの数が多すぎて、追いついてないのかなと思ひまして、図書館のところは強化いただければありがたいな思っているところがございます。

2点目が自習室の周りなんですけれども、最近、神戸市でもまちなか自習室という取り組みや、千葉県市原市でもまた山形市でも色々なところで学習ができる自習室みたいなところの強化をやっている地方自治体が多いという話も見ましたので、ぜひ流山も勉強したい人も多いのかなと思ひましたので、そういうのもいただくとありがたいかなと思つた次第です。

3点目の駅前の交通事情ってとこなんです、流山おおたかの森駅前、人が多く歩けるような環境、広場になっていて、そこに市も「皆さん自転車を押してください」という立て看板を至るところにやっつけているんですけれども、それでもやっぱり自転車がザーッと走って行って、歩行者と危ない状況になっているのは、毎日見ます。これはなんでかな、どうしたらいいんだろうなと思ひていたときに、自転車禁止区間の中に駐輪場があるからなのかなと私は思ひまして、その駐輪場に停めるために自転車がいきますので、自転車を押さなきゃいけないところの区間の中には駐輪場を設けないとか、その外にするとかそういうのも御検討いただければありがたいな思っている次第です。

A 生涯学習部長

まず、図書館蔵書についてですが、御指摘の通り、蔵書冊数は千葉県の平均よりもやや下回った状況です。令和8年度につきましては、図書購入費の拡充というものを予算編成の中で検討しているところでございます。これによってまずは平均を上回ればと考えております。

自習室については、現在各図書館の方には閲覧スペースを設けており、基本的に図書館の図書をそこで読んだり、流山市では資料の持ち込みを禁止はしておりませんので、自主研究もできるような環境はとっております。

現在、中央図書館がリニューアル中ですが、完成後は、座席数を増やすといったことも検討しています。

また、生涯学習センターや公民館でも、若い方だけでなくゆうゆう大学をはじめシルバー世代、リタイア世代の方も自主探求いただける機会もございます。

今後も生涯を通じての学習の場というものを確保してまいりたいと思います。

A 学校教育部長

小山小学校というお言葉が出たので私からお話させていただきます。

図書館の方につきましては、生涯学習部長からお話があった通りですけれども、学校の方も小山小学校をはじめ大規模校がたくさんありまして、こどもたちが、人数が多くてなかなか図書室に行けないという状況も生じているので、この辺りにつきましては、工夫を考えておりまして、例えば、電子図書を導入するとか、こどもたちのタブレットで本を読める環境を作るとか、そういった形で、こどもたちの図書環境につきましては充実していく方向で考えております。

もちろん蔵書の本の方も予算を要望しておりまして、これから学校図書の方につきましては、充実を図っていきたいと思っているところでございます。

A 土木部長

3点目の駅前の交通マナーということで、特におおたかの森駅に關しましては、東武線とTXがクロスしている關係で、4つのうち2つが交通広場になっております。大きいバスロータリーがある西口、そして東口この2つが道路管理者である土木部が管理する交通広場であります。やはり駅を利用される方の駐輪場は、駅にどれだけ近いところに駐輪場があるかということで、その位置の価値というのが駅の利用者の増進になるべきものでして、それが駅から遠いところであって、駐輪場が成り立つかということそこは非常に難しいところがあります。

ただ、実際のところおおたかの森駅の本当に駅近の駐輪場は、実は市が持っていないで、ちょっと離れた高架下や、ちょっと離れたところの中の街区のところに駐輪場を設けているというのが、実は市で管理している駐輪場の状況です。

実際は、複合施設の商業施設、要するにスーパーなどが入っているところでのお買い物を自転車利用されている方々が乗ったまま、森のまち広場や北口都市広場といったところの大人の自転車マナーというのが、我々としても課題なのかなと思っております。毎月15日に、自転車安全の日ということで、おおたかの森駅だけではなく各駅で、交通安全マナーの啓発活動に努めているところであります。

特におおたかの森駅の周りに関しましては、限定しては非常によくはないと思うんですが、お買い物の大人の方に、啓発は常に努めております。やはりもっともっと周知が必要なのかなというのは思います。また、今回御意見いただきました内容につきましては、充実した駐輪場の適正な配置に努めてまいりたいと考えています。

Q 市民

今日はありがとうございます。

私は流山で医療に携わっているものの1人なんですけれども、その立場から1つ御質問させていただければと思います。

流山は、非常にこどもの数が増えているということもあって、お子さんも病気がちということで、具合の悪いお子さんを拝見することもあるんですけれども、お子さんがやっぱり具合が悪くて点滴が必要

だとか、入院が必要じゃないかっていうような方も時々いらっしゃるんですけども、お子さんが入院できるような病院施設があまり流山市内にはないということと、あとは点滴とかいうことも、一般のクリニックはたくさんあるんですが、クリニックでも中々対応できないということもあって、結局そういったお子さんは、流山市内の病院ではなく、柏、松戸とか、そちらの方に送らざるを得ないというような状況もあって、これだけお子さんの多いところで、小児の医療は不十分じゃないかと感じているところがあります。

あと、お子さんに限らず、流山はどんどん人口が増えていまして、柏、松戸は市立病院、自治体の設立した病院がきちんとあって、地域の人の健康管理に非常に役立っているところもあるんですけど、流山市内には自治体主導の病院がなく、市民としては不十分だなと思っているところもありまして、しっかりとした病院施設が1つあれば、市民としても非常に心強いんじゃないかなと思いますので、そこだけで完結するようないろんな科が充実しているような病院が1つあればいいなと思います。

おおたかの森には、おおたかの森病院もありますけど、あそこは柏市なので、流山だと流山中央病院、千葉愛友会、東葛病院になりますけど、それぞれ特色が違って、1つの場所でいろんな医療を完結するというような病院はまだないのかなというふうに感じているところです。

また、医療とは離れますけども、私は泳ぐのが大好きで、夏に限らず泳ぎたいなと思っているんですけども、屋内のプールとかがあればいいなと思って、コミュニティプラザは夏だけだと。温水プールがあれば非常に心地よく泳げるんですけども、そこは夏以外だとテニスコートになってしまったりとかして、せっかくクリーンセンターの焼却熱が何か有効利用できて、屋内に年中使えるようなプールがあればいいなとは思っているんですけども、セントラルパークのスポーツ設備もどんどん拡充されていますし、新しいスポーツフィールドもつくられるということなので、そういった1つのスポーツ施設の充実という点から年中使える屋内プールの設置等も長期的な視点でお考えいただければなと思っています。

最後にもう一点ですけども、ANNEXとおおたかの森SCの間のこと

ろが、一方通行になっています。今度、反対側 cotoe とスパメツツアのところが、逆方向に一方通行になるということですが、個人的には、そこは一方通行にすると車で反対側からくることもあるので、あまり利便性を感じないような気がしますけども、その辺はどういう目的でそういうふうを考えてらっしゃるのかということをお聞きしたいと思ひまして御質問させていただきます。

A 健康福祉部長

私から1点目の病院の関係についてお話させていただきたいと思ひます。

まず、市内の医療に関わる方ということでお世話になっていると思ひます。ありがとうございます。

点滴や入院ができる病院が市内にはない、そして、ある程度完結できる病院が市内にないということについてなんです、おっしゃる通りかと思ひます。特に小児の救急、入院を受けられる病院、病床というのが事実上、今はないという状況になっているかと思ひますので、事実上という意味なんですけど、おっしゃる意味はわかります。

医療、特に病床については、もう御承知だと思ひんですが、千葉県の東葛北部医療圏、二次医療圏域の中で賄っていくという根幹の考え方がある中に、松戸、柏、野田、流山、我孫子の5市の中で、この状況を共通の課題として、どうやって解決といいますか改善・改良していくかという話に及んでいる状況があります。

そして、市内への病院の開設にあたっては、病床の配分に際して、県への要望ですとか、いろんな働きかけをやってきた状況なんです、諸事情によって今市内の病院開設という見通しが立っていないといひますか、止まっている状況にあるということが現状としてごひいます。

ただ、御指摘の通り、人口に対しての病床数というのが、先ほど申し上げた東葛北部医療圏の5市で数えたときには、やはり流山市が一番人口に対して病床数が少ないという状況が、事実としてありますので、この課題については、引き続き、松戸保健所を中心とする東葛北部医療圏の中でのいろんな議論の中で、私たちも関わって考え続けなければいけないと思ひています。御質問ありがとうございます。御

指摘の通りの課題を有しているという認識です。

A 生涯学習部長

温水プールについては、同様の御意見をこれまでも数回いただいております。新設にあたっては、まず用地取得の点でも市内の土地は地価が上昇しており、用地取得が困難です。

次に建設コストですが、建設費も上昇しており何十億円という単位で金額がかかってくるということ、さらにランニングコスト、毎年の維持費を考えると、現時点では新設の検討はしていません。

幸い流山市内にはフィットネスジム等が進出しており、通年利用できるプールもございますので、今のところはそれらを活用いただく事で健康維持を図っていただければと考えています。

A まちづくり推進部長

私から3点目のおおたかの森の道路の関係、「こもれびストリート」という名前をつけて供用開始しているんですけども、まずこちらの工事を始める段階の流れというか、ちょうど令和2年ぐらいから大型商業施設が次々にオープンをしてきて、それに伴い、新しく一方通行にした道路についても、人がかなり通る、車も通るということで錯綜するような状況が見受けられました。市としましても、交通安全が大事ですので、道路をいかに安全な道路にできるかということで、車をなるべく少なくし、さらに歩いて楽しい。国が推奨しているんですけども、歩いて楽しいウォーカブルな道路を作っていこうと。あれだけの人がある商業施設もあるところなので、皆さん歩いていただいて、そこで、例えば、滞留していただいて、ベンチ等も置いてあると思いますので、まわりの商業施設とかで買ったものをベンチに座っていただいでくつろいでいただく、さらにその道路については、今度2期工事、cotoeのある方の工事が進みますと、市野谷の森に繋がる道路としてという位置付けもありますので、現在進めているところです。

確かに一方通行になりますので、車を使われる方にとっては、使い勝手はもちろん悪くなるんですけども、あくまでも歩いて楽しんでいただく道路にしていきたいということで進めておりますので、車の方

に対しては、御迷惑をおかけしてしまうんですけども、2期工事の方は、令和8年度工事を予定しておりますので、引き続き御理解の方をいただければと思います。

A 市長

今の道路の方向は、駅前からそれぞれの方向に行くということです。

それからもう1つの病院ですけども、御存じのように三次医療圏の中で完結する病院というのは指定されていて、松戸医療センターと慈恵医大がその核の病院となっているわけですが、この中で、同核の病院が流山市内にということは、県では全く考えておられません。この二つの病院を中心にしていくということと、それから松戸医療センターに流山のこどもたちも、緊急事態の場合には、お世話になっているわけですけども、松戸医療センターのこどもの救急に関して、どうやって維持していくかという議論を、広域で話し合っ、つまり何か新しくなるものを作るということはお医者さんもうらっしゃらないし、それから赤字で経営も成り立たないということで、今ある資源をどうやって広域でサポートしていくかという議論をしている状況です。病院の誘致はできると思うんですけど、三次救急の完結できる大きな病院を流山にということは困難な状況にあります。残念ながらこの現状だけお話しさせていただきます。

Q 市民

このような機会いただきましてありがとうございます。

土曜日の午前中であり、選挙もたまたまですけど出てしまったこの忙しい時期に、幹部職員の方が一堂に会してという非常に素晴らしい会なのかなと思っています。

3つほど要望ですけど、1つ目は、この会議ちょっと堅苦しくないですかというのを印象として思っていました。ざっくばらんに開かれた市政みたいな形でやるんですけど、いざ会場に入ってくると答弁書が準備されていて、事前の質問どう答えるかというのを皆さんが一生懸命準備されていて、それ自体素晴らしいことだと思うんですけど、市議会に来ているような気分になってしまいました。もうちょっ

とオープンにやるためには、ファシリテーションであるとか会場の作り方であるとか、何かもうちょっとコミュニケーションができるようなやり方ってあるんじゃないかなと思ったので、それが1つ目の要望です。

2つ目は、事前に質問をお送りして採用されたからここに呼ばれているんだと思うんですけど、いざ調べてみると、私が聞いたかったようなことは、統計文書とか過去の議事録とか、そういったところに出ているので、ある程度はわかりましたというところで、今日は違う質問をしようかなと思っています。

そういった調べを進めていく中で、やはり市のホームページを見ていろいろ検索して、結果にたどり着くまでに多大な時間がかかりました。その検索の仕方とか情報の引き出し方っていうのを改善できないかというのが2つ目の要望です。

調べていくと、LINEで行政サービスに対してチャットボットができるようになりまして。そういったがものが、行政文書の検索とかにうまく生かせるんじゃないかなと思うので、職員の方がChatGPTを使えるようになりましてのもつい最近の話だと思うんですけど、そういったものからDXの推進ということで、うまく行政文書にたどり着くような仕掛けっていうのを検討していただけないかなっていうのが2つ目のお願いです。

3つ目は、私自身10年ぐらい前に転入してきて、転勤族でいろんなところに行ったときに、やっぱり役所の対応って結構引っかかるところがあって、流山市に来たときに結構感動したんです。転入者のファーストコンタクトってやっぱり転入する役所の対応だと思うんです。そこがすごくよかったので流山市が結構好きになったんですよね。

ただ一方、行政の皆さんの対応のよさというのが、上意下達、トップダウンで厳しくやられてあんなったのかなっていう気持ちもちよつとあって、職員の皆さんが生き生きと働きがいを持ってストレス少なく働いているのかっていうのを気になりました。

そういったものを測定しているのか、どうやって向上させているのかっていうのを気になっています。実際調べてみると、流山市経営改革プランで職員の人材育成っていう項目があるんですね。ただそこには、能力向上とか効率化とか働きがいを作るために職員提案を活性化

させましょうと。あとは、他の自治体との交流とか、市民活動との交流を通じて、働きがいを上げていってエンゲージメントを向上させていきたいと思いますとかそういうことが書いてあります。

ただ、職場として風通しがいいとか垣根のない横連携ができているとかそういったことは内部的な活動だと思うんで公開されていません。上司と部下の1 on 1のコミュニケーションをやっているか、360度評価をやっているとかそういった職場のエンゲージメントスコアみたいなものが、人事考課の1つの観点になっているとか。そういった意味で、働きがい、職員の働きやすさみたいなものを向上させるための手段というのは何かあるのかっていうのをお聞かせいただければと思います。

これは総合政策の分野なのかもしれないですけど、市長の考え方も聞いてみたいなと思っています。

A 市長

まず、タウンミーティングですが、流山市のタウンミーティングは対面式の予約なし、テーマ自由でどなたでも来ていただけますし、そこでの要望や意見交換、提案は予約なしなので、原稿もなにもないんですね。本当に何が出てくるかわからないし、生の声を伺えるということで、出席する側としては、特に部長たちにとってはすごくいい緊張感があるのかなと思います。

認識している課題が出てきて、こういうのをやっていますとお答えできる場合もありますけど、認識していない場合もあったり、そして、そこでの指摘で現地を見に行行って改善するとか、そこで出された提案についてどういうふうに対応しています、或いはすぐに改修しましたとか、改修するために今こういう協議をして半年後ぐらいまでに完成しますとか検討が必要なものを、市ホームページのタウンミーティングのところに公表しております。

テーマ別であったり、地域別であったり、オンラインタウンミーティングもやっているんです。それから、今回の無作為抽出型と、色々なタイプのタウンミーティングをすることで、色々な方の色々な意見について、すべて拾いながら流山市政に反映しているということです。あまり堅苦しくなるとはいけないと思い私はカジュアルで来まし

たけども、カジュアル化というところは、1つ御意見として承ります。

それから、タウンミーティングも今まで進化しながら、最初は対面式の自由型だったんですが、メリットもあるしデメリットもあるので、色々な形の意見をいただくために、現在の種類のタウンミーティングをやっておりますので、もっとカジュアルに、或いは、もっとフリーにということであればそれはそれで工夫してまいります。

答弁書があるわけではないので、こんなことを聞いてみたいというようなところを書いていただいておりますが、その質問に限定しているわけでもありませんし、その質問をしないで別のものが出てくることもありますので、そこは議会と違ってもっとフリーにやっています。

検索のことは総合政策部長がお答えしますが、流山市のサービスはいけているのに、市ホームページはいけていないということで、3年ほど前でしょうか。市民から私たちに提案させていただきという方たちが現れわれまして、そして、会を開いていただいて提案をいただき、予算と改修できる範囲の枠組みの中で、努力をしていただいで改定しています。

また新たに改定時期が近づいておりますので、普段お気づきの点を御意見いただければ、そういった市民委員が考慮しながら流山市に提案をし、直していくことができると思います。

市の職員が生き生きと実際に部長と部長以下とでどういう風になっているかというのは、一人一人について申し上げられませんが、流山市はマナー研修をしてきて、以前は市民の方が窓口に来られても、すぐに立ち上がって窓口で対応しなかったというのが、23年前、私が就任したときに、そういう状況がありました。

それで、マナー研修を公から民間のものに変え、窓口対応アンケートというものを毎年11月12月にしておりますけども、窓口を利用された方にアンケート用紙を配って、6項目について、4段階評価で、5段階ですと「まあまあ」というところで皆さんマルつけてしまうので、「まあまあ」を除いて、良いか悪いかをはっきりさせるという形で6項目、それから気が付いた点というのも、もちろんフリーで書いていただいております。4点満点で今年は約3.8点です。フリーで書いていただくところに、例えば、具体的に待ち時間が長くて、それに

気がつかなかったという意見をいただいたので、今流山市では窓口のところに番号でお知らせをしたり、それからX等で待ち時間が何分ですと事前にお知らせをする仕組みを作ったりということで、いただいた御意見に対して、きちんと組織的に対応して、市民窓口対応がよくなるように、10数年努力をしてきているところです。

かなり良くなっていると思うんですが、そうでないことは必ずありますので、その時は御指摘いただいて、それを個人だけではなく組織として改善していけるようにということでこれからも続けてまいります。窓口アンケートに答えようとする、11月中旬から1か月ほど庁内に設置していますので、ぜひ御利用いただいて、御意見をいただければと思います。

あとは、職員のマネジメントとか人事評価について、やはり目標設定でどういうふうになっていくかというところを、今まで試行錯誤して作ってきました。流山市の職員が自由闊達に意見交換をしたり提案したり、私や副市長にも提案がかなり上がってきて、或いは過去に自分が苦労したということに対して自分が異動する前にマニュアルを作りましたとか、そういうことはもう自由に行われていますので、かなり質もそれから主体性もある組織に変わってきているというふうに思います。民間や特別に優れている他団体でやっていることなどはぜひ教えていただいて、他の役所に行ったときにこういうことがあった、とてもすばらしいから流山市も検討してくださいというふうなことも教えていただければ、どんどん改善をしていきたいし、していける組織になりつつあるというふうに思います。もし気になる部がありましたら御指導いただいて御質問ください。

A 総合政策部長

私からはホームページの関係とかもう少し詳しい部分をお話したいと思います。

確かにホームページの検索エンジンは課題だと思っています。前回、5年前、先ほど市長からもお話がありました、市民の方から提案をいただくというホームページリニューアルアドバイザーということで、市と市民の方で共同してホームページ見直しをするという作業をしました。

以前の流山市のホームページというのは、昔ながらのホームページでした。トップページを見ると色んな項目があって、そこをいちいち見なければいけないというところを、デザイン的に、視覚的に、直感的に入ってくるようにと当時は直しました。

ただ、やっぱり検索のエンジンの質があまり良くなかったということで、今回もホームページのリニューアルアドバイザーの方から意見をもらいながら、検索の向上とか、もっと直感的に調べているものが上がってくるようにということで、その部分の取り組みを行っていてこれから反映していくところでございます。

また、流山市のホームページを見ていただいて、こういう点があればということがありましたら、ホームページからも御意見を受け付けているところもありますのでお寄せいただければと思います。

もう一点、職員の関係で、総合政策部としては、情報政策・改革改善課で、仕事の改善とかを行っている部署がでございます。

まず、部局長に関しては、部局長の仕事と目標ということで、1年ごとに、それぞれの部のミッションを仕事の目標として、どういうふうに解決していくかということで、毎年挙げまして、市長・副市長と共有しながら、どういうふうに1年間運営するかということで、ヒアリングを行っているところです。それをまたフィードバックしながら、部局長がコミュニケーションをとってやっているというところでございます。

また、職員の関係ですけれども、職員の提案制度というのがございます。職員が仕事をして、こういうふうにしたいということをして、年に1回提案できる制度を設けています。そこで職員からこういうふうにしたほうが良いという提案が上がってきており、今年度もいろんな提案が上がっています。その内容を精査して、採用するものもあれば、採用しないものもあるんですが、それは必ずその職員にどうして採用にならなかったというところの理由を提示しています。職員も、活発に自分の仕事だけではなく、流山市全体の仕事の運営に関して意見を出せるようなシステムというものを作っております。

ただ、やはりそれだけでは、まだまだAIとか色々な面で世界が変わってきていますので、市がそこに乗り遅れないように情報政策・改革改善課とともに情報を集めて、流山市として、組織としての運営のバ

ージョンアップを図っていききたいというふうに考えております。

Q 市民

お時間ありがとうございます。

私は住んでいる期間は10年ぐらい住ませてもらっているんですけど、皆さんみたいにいろいろなことを気づいたり考えたりしながら住んでいるかなと思ってそうでもないんだなと思って、反省しながら皆さんの意見を有意義に聞かせていただいていたところだったんですけども、そして、流山市という、やっぱり子育て世代をすごく受け入れて充実している街という印象がすごく広まっているかなというふうに認識しているんですけども、その反面、私は、子育てをしてないところもあって、そうじゃない世代、子育てをしていない世帯というの、間違いなくこの街の中にはいると思っていて、また、もともとこういう町に住んでいる人たち、そして、若くはないかもしれないけれども、長く住んでこの街を支えてきた人達もいると思いますし、そういったところへの取り組みだったりとか働きかけだったりとかみたいなどころのお話も併せて聞けたらありがたいなと思ったのと、私自身がこどものときに、私の両親が小さな団地から一戸建を買って引っ越した場所というのがやはり新興住宅地的なこれから広げていこう、子育ても含めた世代を受け入れて広げていこうみたいな住宅地でした。そこにもう何十年とこんな年になってしまっているんですけども、そうなるってくると私たちが住んでいた頃はたくさんのおこもがいて、それこそボールが飛んでくるようなぐらい、色んな公園でいろんなこどもたちが遊び回ってという時代があって、今見てみるとそういった世代が大人になって、そこを購入した親たちが次の世代になって長く住んでいるっていう時代が来ている。街って構成しているものが成長していくとか変わっていく変動していくものだと思っていて、今はおそらくその子育て世代みたいなどころに力を入れて充実させて街がすごく活性化してっていう状態だと思うんですけども、その何十年か後に見えるものっていうのはまた違う構成になっている。そういったまちづくりに関しても、併せて検討されているのかなみたいなどころ、どんなことをイメージされてその先のことも含めた全体的な街というのを考えてらっしゃるのかなっていうところに

実はとても興味があって、今日参加させていただいたもそういったところもお話聞けたらいいなと思ったのが1つあります。

私の質問はそれだけなんですけど、あとは、皆さんのお話を聞いていて、例えば図書館の話があったんですけど、たくさん住民がいる中で、その市民の中から例えば不要になった書籍とかを集めてリサイクルをすることかという意味合いで、図書館とかの蔵書を増やす、学校の蔵書冊数を増やすみたいな取り組みとかがあったら、ゴミを減らすという意味でもすごくいいんじゃないかなって思いました。

あと、自転車駐輪場とかに関しては、駅に入っているテナントさんたちの施設というところでもうまくいってないところもあるんじゃないかみたいなのところのお話があったんですけど、そういったテナントさんたちだったり、誘致している店舗、企業っていうところへの働きかけ、市民への働きかけは、のぼりを出したりとかポスターをやったり、月に1回キャンペーンやったりみたいなことをされていると思うんですけど、そういう取り組みをされたらどうかなって思いました。やっているのかもしれないんですけど、面白いんじゃないかなっていうふうに思ったのと、あとはこの会議のファシリテーションの工夫みたいなところの話があったんですけど、実は私も長く住んでいる割に流山はすごく広いので、今日もこっちの方まで歩いてきたのが初めてだったなと思っていて、案内の紙をいただいたときに、市庁舎第1庁舎4階しか書いていなくて住所もないし、周りにどんなものがあるエリアなのかも、ホームページで調べたり、検索したんですけど、ちょっと不安がありました。せめてそのチラシに、住所があったりとか、簡易的なマップで、イトーヨーカドーがここにあるってこの辺だよみたいなものがあったらすごく安心感があつたなっていうふうに思ったのと、それを調べるときにやはりホームページのアクセスをしたんですけど、住所は書いてあるんですけど、そこからマップに飛べなくて、住所をコピーしてまた検索してみたいなことをしていたので、何かそこにグーグルマップとかのリンクが張れたらすごくわかりやすいのかなって思ったのと、あと配布された資料にみなさんのお名前があると、こういう方とお話したんだなって家に帰ってからわかる、こっちに座っていると反対側の方の名前、大きく書いてくださっているんですけど、私は目が悪くてしっかりと見えないので。なんかそういうことも思い

ましたっていうところを共有させていただけたらなと思います。

私も仕事がオフィスの環境を作るみたいな仕事をしているのでまちづくりに似ている、もっと小さな町を作っているみたいな立場なので、すごくそのモラルとかを周知させたりとか、する大変さとか、例えば亀裂を全部見ていくことの大変さとかすごく想像がつくので、それでも日々1個1個取り組んでいらっしゃるんだらうなと思うんですけれども、住民の皆さんもその周知するっていうことの大変さはぜひ知っていただいて、参加されている方たちにもぜひいっぱい周知して欲しいんですけど、自分たちの周りの人にどんどん周知して、例えばゴミでもそうですし、クラックとかもそうなんですけど、こういうのがあるよねっていうこととか、こういうことに気をつけた方がいいよとか、自転車もそうですけど、こういうところはみんなで作っていきこうっていうふうに働きかけていかないと、多分行政側だけじゃ絶対できないんですよ。なので、ぜひそういうところも一緒にやっていったらよりよくなるのかなと思うので、ママ友とか、マンションの隣の人とか、お子さんのお友達のお父さんお母さんとかみたいなところにもこういうところ僕は気になっている、私は気になっているみたいな、市はこういうことをやってくれているみたいだというところを伝え合って、広げていかないと多分うまくいかないんだらうなっていうのを聞いていて思ったので、私も一緒に協力したいなと思いました。

A 市長

沢山いただいたので、順不同でお答えしていきたいと思います。

まず、街の中で、今までTXとその鉄道敷地を作るのに、区画整理という手法で、一体的に鉄道土地区画整理を行うということが1991年に法律ができて、20世紀末から地権者との協議、それから徐々に森林を伐採して区画整理がスタートしています。

そして、現在に至っているわけですが、当時私は、都市計画とかまちづくり環境計画の仕事をしていた人間として、そういったこともあり流山を選んで、いいところだと思って住んでいるんですが、TXができることも期待して入ってきました。

ですが、区画整理が売れるかどうか、これは流山市の18%の面積で、市にとっては大きな事業なんですね。当時の議会と執行部はTX

ができさえすれば何とかなるといっても楽観的だったんですが、私が大学で首都圏の都市の認知度とイメージ調査というのを経年でやっていたときに、流山市は認知度がとても低かったんです。残念ながら。そして、余りにも低過ぎてイメージは白紙なんです。若い人たちに対して、つまり良いイメージでもない、悪いイメージでもない。これは流山にとってプラスでした。けどもそれぐらい認知度がない。何県なのかもよくわからないとか。それから流山市と書いて「ながれやま」と読める人ばかりだけでなく、「りゅうざん」と読む人がいるとか、もうそのくらい認知度がなかったんです。

そうすると何が起こるかと言うと、このTXが開通して、沿線全体で宅地が売りにだされるわけです。そんなに認知度が低い街で宅地が売れるかどうか。これが私の危機感でした。

そういうこともあって、マーケティング課を作ったりいろいろやってきたわけですが、結果的にはTX沿線で一番早く、一番高く売れる街になってきたところなんです。本当にそれは戦略的に作ってこないとそうならなかったと私は思っています。半端な土地の量ではなく、6万人分の土地が供給されたわけですから、これが売れなければ、或いは一部売れ残ったり、安くしか売れないと費用が回収できません。そうすると流山市の財政は、破綻かひっ迫します。そうすると今ある行政サービスもそれを維持できなくなると、それは非常に危機的な状況だったと私は思っています。その中で、とにかく、流山市を若い方々に住宅の選択肢として選んでいただけるような戦略を展開するというのが1つ。

それから、TX沿線は、とにかく若い子育て世代の方々に、或いは少なくとも子育てしているかどうかは家庭によって違うにしても、その年代の方々、新しい家を求められる年代の方々に訴求して、流山を選んでもらうということをやってきました。

そこが大体想定通りになった、最近値段は想定以上になってきましたが、それが波及して、市内全域で若い人たちは、高齢者の家が売りに出されると空き家にはならず、次の若い人たちが次々と入ってきて、そして10年前には、年寄りばかりでとても静寂な住宅街だったのが、今はこどもたちの笑い声や泣き声が聞こえる街になってきています。

共働きの子育て世代というのは、社会的に公共セクターからすると、最も行政需要の高い方たちなんですね。共働きですから、まず保育園が必要になります。そして、共働きですと、親が近くにいない方たち、流山には転入者の半分の方たちは、縁もゆかりもない方たちが流山を選んで入ってきていただいています。

そうすると、例えば出産のときに、ご主人が海外出張とかに行っていて、特にコロナの時期には、実家から人が来られないというようなときに、流山市でそれを支える仕組みを作らないと、出産も、或いはそのあとの産後の体制も大変苦しい状況になるわけですよ。そういった意味では、行政需要が高まりますけど、そこは流山市がやっぱりきちんとしていかないといけない。それから、道路、歩道が整備されているとか公園を整備するとか、税金もたくさん払っていただけるんですが、行政需要も高まる方たちです。

そのインフラ整備をしていくことで、高齢者の方々もすべての市民のインフラ整備が整うんですね。つまり一番ハードルの高い方たちにあわせて、ベビーカーが通れる、行き来して不便がない街というのは、車椅子の方も杖をついている方も歩きやすい街になりますので、そういう意味で、私は共働き世代をメインターゲットにインフラ整備をしてきましたが、それは全ての方にやさしい街になるという考え方で進めてまいりました。

子育て世代のための様々なインフラ整備をしてきましたけれども、と同時に、高齢者の方に私たちはどうなのということを聞かれるんですね。子育て世代はわかったけど、私たちはどうなのか。私たちも30年40年、税金払ってきているんだと。おかげさまで、保育園の待機児童もなくなりましたが、特別養護老人ホームの待機もリストにはあがっているものの今すぐ入りたいという方は実質ゼロなんですね。

つまり、たくさん税金を払う若い世代の方々が、大量に流山に移り住んできていただいたことで、高齢者の施設も整備されてきているんです。子育て世代も高齢者、独身の方もこどものいない方々も住みやすい環境づくりというのは、流山市は進めてこられたというふうに思っています。

その他にも共通して健康事業とか、或いは公園数の人口面積に対しては非常に多い街ですし、色んなことで、皆さんに流山市を楽しんで

使っていただける或いは使いこなしていただくっていうのは、すべての年代の方に可能だというふうに思っています。

あと市民活動などもたくさんありまして、これはもう流山市で30年、40年お住いの方々も大変熱心にそういった活動を続けて築いてこられましたし、それから流山に5年、10年或いはそれ以下で引っ越してきて2、3年して、こんな活動ができたらいいな、こういうことが整ったらいいなというのを、新しい市民の方々は、今までの先輩流山市民と違って、社会企業家的なセンスで、企業にスポンサーを求めたりして、うまく流山市の補助金を求めずになさる方々もいらっしゃいます。

それから、流山市としては、市民活動を推進するために、規模によって、或いは産声をあげた市民団体なのか、それなりの実績のある市民団体かによって補助金のつけ方を変えて、公益事業をやっていただくということを支援しています。

そういう意味では、どなたも流山市民1年目の方も30年目の方も、市民活動を通じて、公益事業、或いは自分たちの興味のある文化事業や様々な活動やっていただいていますので、ぜひある意味フリーな方々はなおさら何か立ち上げてやっていただいて、それから御提案されたような市民を繋いで情報を共有していくような、例えばそういうプラットフォームを作っていただいたり、いろんなことができるかと思いますので、できることから始めていただければ大変うれしく思います。

それから、今後の流山の街の流れですけども、流山市では松ヶ丘という南柏から徒歩7、8分のところと江戸川台が今から60年前に一戸建住宅地として開発をされました。

その頃は流山市というのは農村エリアでしたから、本当に新興住宅地のために道路整備をしたり学校を開設したり、その当時の財政としては大きな投資をして、その新興住宅地の環境を整えてきました。

今度は、そういう住宅地の方から、おおたかの森、TX沿線ばかりということをよく言われるんですが、これは今そのタイミングなので、仕方がないです。それは今までも繰り返されてきたことなので、ただ、街の更新というのは、20年30年経過したときに、さらに再投資をしていくというのは必要なんですね。

それで現在、TX沿線の区画整理がほぼ一段落してきましたので、江戸川台、それから初石駅の橋上駅化ができましたので今度は西口の整備とか、それから南流山の民間誘導の活性化を進めています。200年の歴史を持つ流山本町も古民家を活用して、再生を進めているところです。

そういう意味で、流山のそれぞれの地域に対して、今再投資、再活性化を進めていて、流山本町も確実にその成果が出てきています。流山本町はお出かけをされたことがある方いらっしゃいますか。まだ今日の会場の中では3分の1ぐらいですから、ぜひニュータウンだけじゃない、白みりん発祥の歴史的な印旛県の県庁が置かれたこともありまますし、千葉大学教育学部の発祥の地でもあるんですね。そういったものが残っていますので、ぜひ古くて新しい流山本町をお楽しみいただきたいんですが、そうしていろんなエリアを今後、それぞれの特徴を生かしながら、アップデートしているところですので、街としては、TX沿線だけじゃなくて、流山市全域がそれぞれの独特な雰囲気を出しながら流山全体が、他の街にはない、一面的な街ではなくて多面的な、そしてそれぞれがセンスのいい街に今変わりつつあるというふうに思っています。

それから人口構成ですが、流山市は20代後半と30代前半の方の転入が一番多いんです。ですが、それが累積していきますから、30代40代の方が一番多いですね。そして、流山市の10年前の総合計画の人口推計では、来年が人口ピークなんですが、どうみてもなさそうな状況になってきています。国の社会保障人口問題研究所の推計では、2050年まで流山市の人口が増え、その人口増加率、将来人口増加率は全国で2番目、1位が東京都中央区、2番が流山市の推計になっております。これは、推計ですから、それがあたるかどうかはわかりませんがそういう試算もあります。そういう中で、流山市は、もう1つは、TXの東京延伸を一生懸命働きかけています。これが東京延伸だけで終わるならばさほど影響はないかなと思いますが、東京都の方が臨海地域地下鉄という、臨海地域から東京駅までの計画を進めています。東京駅の八重洲口にそれぞれが乗り入れることになっているので、一昨日も東京都へ私も要望しに行ってきましたが、東京駅で壁を仕切って臨海地域地下鉄とTXが同じ位置にあるので、それを合体し

て接続化しようと。そうすると、TXでそのまま東京駅、そして新築地、お台場の地域へ入って行って、東京都の構想では、それをJRの臨海線につなげて、羽田空港まで将来行けるようにしようという計画もあります。そういうことも考えると、日本の人口はどんどん減っていきます。ですが、流山市はやはり減りにくい環境にあるので、人口が減る要因よりも増える要因の方が多い。ただし、増えすぎると人口密度が密になりすぎて、家の値段が高くなりすぎてということだけではなくて、良質な住環境、ゆったりとした住環境でなくなるので、そこは都市計画で規制をしながら、増えても推計では24万人ぐらいあと2万5,000人ぐらいですかね。今までのような急増をしていくわけではなくて、ゆっくりと増えていくことが、25年は少なくとも続くということです。そのときに一番多いのは60代になります。そうするとその頃の60代は皆さん現役だと思うので、そうすると、今世紀半ばごろの流山というのは、まだまだ元気で、そして若い人たちが入ってくるためには、お年寄りが相続物件で家を明け渡さないで、中々入ってくるのがなくなるわけですね。ですから私は、相続物件のピークは、これから10年から15年後だと思っています。団塊の世代の方たちが、家を売りに出す、そのときに空き家になる街ではなくて、若い人たちが入ってくる、そういうブランド力をもった、そして住環境のよい、行政サービスの充実したまちをつくってあれば、私はもう1サイクル、21世紀の後半まで人口衰退に伴って空き家や地域コミュニティ、地域経済が疲弊していく街ではなくて、他はともあれ流山はどうしてこんなに現状が維持できているんだろうと言われるような街を作ることは可能だというふうに思っています。ですから皆さん末永く流山にお住いいただければと思います。

A 司会

後半で御提案いただいた件は、貴重な御意見として承らせていただきたいと思います。ありがとうございます。

Q 市民

今のところで、増えても25万人というのは受け入れを規制するということでしょうか。

A 市長

まず受け入れは規制できませんので、要するに売り物件、マンションは流山市内には後数ヶ所しか建つ場所がないんですね。都市計画的に。あとは戸建てになります。戸建てだと80代90代の方がお住まいであれば、売りにでませんから買うことができないわけですね。相続物件として出てきたものが空き家ではなくて買い手がつく街をつくるということで、それができたとしても、4人家族で住んでいたところが、お子さんが独立して、お2人様がお1人様になって、お1人様が亡くなると相続物件で出てくるわけです。それを買った方が、今度は3人、4人家族が入ってくるとそこで人口が増える。これからもう家の数は、現在は増えていますが、あと5年もすると土地がほとんどなくなって、新しく住宅を作るところもなくなってくる。そうすると、後は相続物件をリニューアルしたり建て替えをしたりして、次の世代の方が入ってきて、お1人様のところに3人4人家族が入ってくることで人口増加だけで、新しい住宅地やマンションが流山に次々とできる土地もないので、もう急増はないということです。

Q 市民

よろしくお願いします。

実は縁があって、市長と大学の学部が同じということで、すごく活躍されている方と同じ大学で同じ街に住んでいてとても個人的にうれしく思っております。

最近、こどもが生まれまして、南流山分館の方にとってもよくしてくださって本当にそちらの方にもありがとうございますとお礼をいいたいと思います。

こどもが生まれたからこそ気になる点が2点ありまして、それについてお話しさせていただきます。

学校教育についてなんですけども、報道等でなり手不足や精神疾患等でお休みになってしまう先生が結構多いというような話で、実は私の大学の同期が、学校の先生になったんですけど、半年で精神疾患になって辞めてしまっていてというので、すごい優秀な人だったんですけど、ちょっとショックでというところで、その人の話を聞いていると、部活動はすごい負担だっているというような話になっております。6時

半に出勤をして朝練をして夕方の18時まで部活をやって、そこから業務開始。会議とかがあつて帰るのは夜の20時、21時だというそういう生活をして、土日も部活動で全部使つてという、プライベートがないというような話を聞いています。あと保護者からは朝6時に電話が来たりとか、夜22時に生徒指導のことで電話があつたりというところで、すごい負担というような話を聞いています。

近隣の柏市は、部活動の地域移行が進んでいるということで、学校の先生の負担軽減、いろんな問題があるらしいんですけど、地域移行が進んだというような話を聞いています。

やっぱり、私は部活が必要だと思うんです。未来ある子どもたちがスポーツとか芸術で活躍するというのは大切だと思うんですけども、やっぱり学校の先生の生活も大事かなというふうに思つていまして、流山市には地域移行のことだとか、あとは地域クラブを作つた際にそういう人手がいるのかとかそういうところがまず1点気になっているところでございます。

2点目なんですけども、妻が東京の方で里帰り出産しまして、妊娠の補助券が東京より少なく、妊娠37週ぐらいからなくなって実費でということがあつたみたいなので、妊娠の補助券を、もし増やすことができればというところで要望させてもらいます。

A 学校教育部長

学校の先生に対して、思いを抱いていただき本当にありがとうございます。

流山市の部活動の地域移行なんですけど、実はもうずっとここ数年検討を進めていまして、現在のところ、令和8年9月から休日に移行していくプランを立てているところでございます。その後、段階を追つて、その次の年には、できれば平日に展開していきたいなというふうに目指しているところでございます。

部活動が大事だというふうなお考えで、多くの方々、これまでこのまのころに部活動を体験してきて、やっぱり大事だなと思つているところがあると思うんですけども、部活動のよさというものを残した地域クラブ展開というのを我々考えております。また、指導者については、業務提携をしている業者が人材バンクを持っておりまして、そ

ここに人材を確保していただくことを進めていくのと、先生の中でも実はやりたいって人は一定数いるので、先生方の多くはやはり負担に感じているってことがあって、できればそういうところは、その負担は切り離していきたいと考える一方で、やりたい先生方もいるので、その先生方もその人材バンクに登録していただいて、指導者で活躍していただくというシステムを作る予定です。

それから活動の形につきましては、今の学校の部活動を基本系にしながらも、例えば、その人数が少ない部活動を隣の学校同士を1つにするとか、そういった柔軟な発想で、クラブを作って立ち上げていこうかなっていうふうに考えているところです。

部活動に関して、今まであった問題の中の1つに、この学校に自分は進学することになっているんだけど、自分がやりたい種目がないということがありました。これもそういった形のいろんな組み合わせをしていくことによって、子どもたちが選べるようにしていきたいと考えています。好きなものを好きなだけやれるという、子どもたちにとっても非常にメリットの大きな活動になるんじゃないかということで、計画を練っているところでございます。

いずれにしましても、子どもたちも、やりたいことをできるだけできるような活動にしていく、そして、先生方は先生方で負担に縛られることなく、本来の先生方がやらなきゃいけない子どもたちの対応であるとかあとはもちろん授業というところを、よりやりがいを持って仕事ができるようにしていきたいというふうなことを同時にやれるようにしていきたいと考えているところでございます。

A 健康福祉部長

妊娠中の健診についてお答えします。

妊婦健診の健康診査、週数に応じて母子手帳と一緒に、別冊子で、健診の受診券というのが閉じられて、母子手帳交付時に発行されていると思います。それが週数に応じた健診ということで14回分ということで、双子の場合とか多胎の場合は自治体によってはまた違うんですけども、交付されているのが県下同じ状況だと思います。

例えば、自治体によって独自の健診の券を発行しているところがあるのかもしれないんですけども、現状千葉県では概ね14回の母子保

健法に規定されている週数ごとの健診を賄えるように発行している状況なので、今すぐにそれを市独自でとか県下でというふうな動きはないかと思います。

Q 市民

本日はお時間いただきましてありがとうございます。

3年前におおたかの森北に移住させていただいて、昨年東深井のほうに引っ越しをして今生活をさせていただいています。今ある資源の活用というところに対して私も賛成でして、限られた財政の中で新しいものを作るというのは非常に難しいと思うので、今あるものをより多くの方に使いやすいものにしていただきたいということで、2点今日はお話させていただければなと思っています。

まず1つ目、他の方もおっしゃる図書館や公園の話ですけども、東深井に住んでいるというところで一番近いのが森の図書館がありまして、活用させていただいています。

その中でも、正直もったいないなっていうのが個人的な感想としてありまして、図書館もあり、プールもあり広場もあり遊具もありというのはなかなか、流山だったり柏だったり近隣にはない、すごい充実したところだと思っているんですけども、それぞれがちょっともったいないという印象がありまして、他の方のお話にもありましたけど、蔵書が少ないですとか公園の遊具が少なかったりとかというのがまだまだ活用の余地はあると思っています。

そもそもこれを思った理由が、東深井の最寄り駅でいうと運河駅に属するんですが、最近マンションが建ってきたりとか駅前の駐輪場のところも戸建ての平屋も開発されたりとか、私の家の近くでもまたポラスさんの方で40戸ぐらい戸建てができたりとか、どんどん新しい世代を取り込んできている中で、やっぱりその人たちが使える場所というものがないと定住することができないと思っていますので、新しいものを作る用地もないというのも理解していますし、お金がないというのも理解しているので、あるものをリニューアルしていただきたいというのが1つ目の御提案でございます。

具体的に言うと、図書館のところですけど、自習するスペースが入口入ってすぐのすごく音が反響するところにあって、そこでいろんな

方が勉強したり作業するようなスペースがあって、右側にその本のコーナーがあるというところで、ごちゃっとまとまっているなどというのがあります。私は両方の立場で利用したことがあるんですけども、自習する側としてもちょっとした音で反響してしまうというのがある。自分も子どもが2人いるんですけど、子育てしている世代からしても、入った瞬間に自習している方がいらっしゃるので、すごい気を使うんですね。静かにしなきゃ、でもこどもって言うことは聞かないので、静かにもできない。これはお互いそれぞれ利用する立場にとって適していないのかなと思っています。

本のところに、子どものコーナーというところで紙芝居ができる、靴を脱いであがれるコーナーとか子どもが使える高さ50センチぐらいの机とか椅子を置いているコーナーがあるんですけど、他の場所に比べて少ないし狭いし、音が気になるというのが正直あります。閲覧できるコーナーや自習できるコーナーを作ってくださっているのもわかるんですけど、もう少し区分けをしていかないと、それぞれの利用者にとって、気になる部分があるのかなと思っています。

具体案としては、部屋を作って自習できる密閉されたスペースをつくるということと、子どもが声出しても他の方に気を遣わないような環境、部屋を仕切ってお互い使いやすくするというのを考えているところでございます。

公園につきましては、古墳公園はかなり広大な土地があるんですけど、置いてある遊具のターゲット層はかなり限定的と思っていただいて、具体的に、高齢者や一般的な方が使う健康増進のための遊具は散らばっているんですけど、一方で3歳ぐらいまでの子ども向けの遊具のコーナーがほんの少しあって、昔の方の話を聞くと、昔は砂場がなかったのが砂場を作っていたただけだけでもありがたいという地域の方の声を聞いているんですけども、最近トイレも新しく作っていただいているということもあるので、そのトイレを使うユーザー数を増やすという意味でも、そこに訪れるターゲット層というのを増やす必要があるのかなと思っております。

あと、プールのところなんですけど、住んでいて思ったのですが、近くに船戸市民プールというものがあって、大型のスライダーから、0・1・2歳児が遊べる水深の浅いプールやそこにも高さの低いスラ

イダーがあって、幅広い層の人が遊べるプールがあって、近くに住んでいるんですが、森の図書館に併設されているプールをまだ一度も使ったことがないんですね。詳しいことはわからないんですけど、プールは夏場しか使えなくて、利用者数が少ないと維持管理費もかかってくる。近くに大型のプールがあつたりすると、なかなか集客は見込めないと思うので、残しておくという選択肢も1つではあるんですけども、そこをどう活用するかっていうところで、違うものにしていくというのも1つ選択肢としてあるかなと思っております。

遊具を増やすといった考えもあるんですけども、その土地を生かして、新しい遊具を作るですとかより多くの方が使える古墳公園、森の図書館というところを目指していくのが1つではないかなと思っております。

これは素人考えなんですけど、財政でお金がないというのもあると思いますけど、森の図書館の前に20台ぐらい駐車場のスペース、プールの横にも20台ぐらい、森のエコセンターの方にも、平場における駐車場スペースが40台ぐらい、約100台近くあると思うので、そこを有料にしたとしても、利用したいっていう人が増えれば、そこは利用者数が減らないと思うので、そういった可能性もあるんじゃないかと思っております。

2点目がこれ#8000の対応の拡充ということを依頼させていただきたいと思っております。

また別の方も仰っていましたが小児科の先生が少なかったり、こどもに対して医者が少ないというのは重々承知しておりますし、新しく小児科の先生を誘致するとか新しい病院を作るというのは難しいというのも承知をしているんですけども、であれば、あるものをもっとリニューアルしていただきたいということで、特に#8000の対応の拡充というのをお願いしたいと思っております。

実際に、0歳のこどもがいて、高熱を出したときに使わせていただいたことがあって、その経験からの御相談なんですけども、夜中に#8000電話したときに、今行ける医療機関を教えてくださいという相談したら、その対応される方が「とりあえず東葛病院に電話してください」という話を受けました。病院に詳しくなかったのも、東葛病院に連絡したところ、東葛病院は今対応できる小児科の先生がいないの

で、違う病院に連絡してくださいというふうにたらい回しを受けました。

詳しい医療の状況を分かっている方であればわかるのかもしれませんが、最初に案内されるところで、まずは東葛病院に連絡をしてくださいと言われたにもかかわらず、東葛病院では受け入れできませんと、それこそ他の方も仰っていた柏とか松戸そっちに行ってくださいという声があったので、再度こどもの事態が解決した後に#8000のところに申し入れをしたところを、なかなかこちらの方では対応ができないので、上の方に話を上げてくださいということ声がありましたので今日お話させていただければなと思っております。

これも素人考えですけど、具体的なところとしては、どの病院がどれぐらいの小児科の先生がいて、この小児科の先生は、何歳から何歳までが診れるのか診れないのかという、人数と能力の把握というのをデータベース化しておけば、#8000に誰かが電話したときに今対応できる医者先生がいるのかどうかというところで、たらいまわしを防げると思いますし、先ほどの東葛の大きい地域での話をされているところで、長期的にはそことシステムというのを合わせていただいて、松戸・我孫子・柏・野田・流山で、データベースというのを作っていただいて、たらいまわしを受けない適切な医療を受けられる体制というのを作っていただきたいというのが2つ目の提案になります。

A 生涯学習部長

森の図書館を御利用いただきありがとうございます。

プール側から入って左手は、展示ギャラリーという位置付けで、イベントがない場合に机を並べ、そこで読書や勉強ができるスペースになっております。図書館の奥に入ってくださいますと、そちらにも閲覧コーナーがあります。また、南側にはテラス席があり、寒い時期や暑い時期は難しいですが、春秋には、くつろぎながら読書のできるスペースもございます。

ただ、御指摘のように、ホール（視聴覚室兼大会議室）でイベントがある場合など、音が気になるといったシチュエーションもあるかと思っておりますので、どのように利用調整できるか指定管理者と検討させていただきたいと思っております。

プールに関しては、御指摘の通り、北部市民プールを柏市のプールと比べてしまいますと、確かにスライダーもなく昔風なプールでございしますが、流山市では公共施設に関しまして、管理計画を策定しており、スポーツ施設についても今後どのような形で対応していくか、老朽化し耐用年数が来たときに、それを建て替えるのか、廃止して別なものと統合するのか、こういったものを検討する時期というのは将来的に迎えることとなります。具体的に北部市民プールをどのような扱いにするか、今後耐用年数を超え、これ以上使えないという判断時期を迎える事を踏まえ、いただいた御意見も踏まえながら検討してまいりたいと思います。

A 健康福祉部長

まず#8000番の対応の拡充について、御意見本当にありがとうございます。これは、千葉県の県事業で行われているものなんですけれども、その対応がさらに拡充されればということについては、先ほどのドクターのデータベースというところにも関連してくるのかなと思いますので、今すぐに市としてできることがどれだけあるかというところは置いておいたとしても、非常に有効というか今後必要な論点かなと思ったので、県事業をよく把握していくことと、それから先ほどお伝えしました東葛北部の中で小児科医療それから周産期という妊娠出産の関係についても議論をしていく場が設けられていますので、その議論を聞いていくこと、市町村として参加していく中で何かしら意見を言える場面があれば、そこを活用する等これから考えたいと思います。

それから東葛病院の夜間の小児救急ということで、#8000番から、かけられる医療機関のご案内があったということなんですけれども、実はやはりベースは小児科医の確保困難ということがあって、色々な小児救急の受けとめ方に課題が生じているというのがあるんです。今御紹介いただいた事象に関しては、まず、夜間小児救急ということで、市と、医師会と東葛病院との3者で協定を交わし、夜間小児救急の実施をお願いしています。

この協定自体は、小児科医があたってくださいればもちろんいいんですけれども、先ほどの事情で、必ずしも小児科医だけではなく、小児

を診られるトレーニングを受けたドクターがあたるということになっているので、お断りの理由として、「今小児科医がいないので。」ということは、本来は想定されていなかったのですが、実際そういった声が挙がった時期があったのは確かです。諸事情を勘案した結果、医師会と東葛病院との話し合いの中で、今ある医療を守るという観点からも、去年の10月から運用変更をして、夜間小児救急を19時から23時、この間になるべく受診をしていただいで受けとめていこうという変更が経過の中でありました。

やはり夜中の発熱だとか、嘔吐が激しいとかっていう具合の悪いお子さんを目の当たりにした親御さんの不安は当然のことかと思いますので、今いくつかいただいたその要素、ヒントを私たちの方でよく考えて、今後に活かしていきたいと思いますので、具体的な御提案を本当にありがとうございました。引き続き考えたいと思います。

A まちづくり推進部長

古墳公園についてお答えさせていただきます。

こちらの公園は約5.5ヘクタールの緑豊かな公園となっております。流山市の唯一の地区公園となっております。御意見いただきましたように、健康遊具、老人向けの遊具だとかその辺は備えているんですけども、御意見ありましたように、もう少し小学生向けだとか、こちらの遊具が必要ではないかということをお意見いただきましたので、もちろん散策をしていただくというのも1つですし、いろんな方に来ていただく、あれだけ緑豊かなところなので、遊具についても、担当の方で現場を確認させていただいて、置き場所とか、あと置く遊具とかについて検討させていただければと思います。

あともう1点、有料の駐車場ということにつきましても、いろいろメリットデメリットがあると思いますので、現地を確認しながら検討させていただければと思います。

Q 市民

まずこのミーティングの開始前に市長からお話していただいたんですが、前回体調不良で来れなかったんです。それに対して、秘書の方に再度また僕のことを選出して欲しいっていうことを伝えた上で、今

回この場に呼んでいただいております。本当にありがとうございます。また、隣の部屋からこどもの声が聞こえてうるさいと思います。すいません。自分の息子と娘です。申し訳ないです。息子から実はミーティング中にLINEがきたんですね。市長と握手しちゃったと。もしかすると彼の人生が変わるかもしれないと。

自分の方から幾つかありまして、最寄りが南流山駅で、通勤は北千住で乗り換えて日本橋、茅場町というところに勤務先あります。

南流山なんですけど、13年住んで、市長の方からお話があったんですけど、特に町並みは変わってないですね。それを聞こうと思っていたんですけど、再開発の話があって、ホームページを拝見させていただいたんですけど、さらに楽しいまちにしていきたいなというふうに考えております。

それと道路の舗装の話、皆さんからあったんですが、何か問題があったら市の方に言ってくださいねというふうな話があったんですが、逆に問題がないと補修をしていただけない仕組みを変えてもらいたいかなど。

1つ例を挙げると、南流山に住んでいるという話をさせてもらったんですが、コールマンという店舗があるんですね。キャンプ用品の。あそこの前のアスファルトがガリガリなんですね。それはもう13年前からです。ここで転んだら多分手を切るよな、怪我をするよなと思っただけで13年間経っているんです。なので、そういったところを、例えば市の方が実際町を歩いて変えていただくような仕組みづくりも多分やられているかもしれないですけど、改めてもう一度見直しをしていただきたいなと。これが1つ。

家族の話なんですけど、うちの嫁さんが介護職なんですね。今どの現場も人手が足りないというような話、皆さん聞いていると思うんですけど、やっぱりその介護職も、やはりステージが1段2段変わってきて、本当の意味で人が足りないんだったらどうやって集めるのかと。例えば、流山だけ時給が違うとか、市から補助金を出すとか、これは相当ハードル高いかもしれないですけど、そんなことも考えてみても面白いのかなと。それで自然に人が集まるような仕組みづくりはみんながハッピーになるのかなというふうに思いました。

これが最後なんですけど、流山は電車が4つ走っているじゃないで

すか。もし、5つ目が走ったら面白くないですかという話を市長にしたかったんです。自分のふるさと栃木県宇都宮なんです。その宇都宮というのが今まで餃子の町で推していただけだったんですけど、ライトレール（LRT）を走らせて、街の価値が上がったんですよ。どんなふうに上がったかというと、農村地区、何もない工業地帯のところに線路を引いたことによって、人気が出て、こんなところがこんな値段になっているよというような現象が今起きているそうです。これは父親から聞きました。

なので、例えばホームページで「5つの電車が走るまち流山」的な、何かあったら面白いのかなど。ただ、実際そのLRTを目的に、全国から人が集まっているっていう話も聞いたことがあります。そのLRTを今江戸川沿いに作っている波のプールの施設あるじゃないですか。ああいったところに、繋いだら、漠然とした話で申し訳ないですけど、何か面白いのかなど。市長初め、フロントラインに立つ皆さんには本当に楽しいまちづくり、こういったことを目指していただいて、本当にみんながハッピーになるようなまち、楽しいのかなどというふうに思っております。すいません。自分だけ漠然としちゃいまして申しわけありません。

A 市長

私からは、南流山駅の補足とLRTについて申し上げます。

南流山駅の周辺の民間誘導型の再開発の促進と、来年度から南流山駅の南口と北口の再整備にはいってきます。

南口のほうの広場を拡大して、流山おおたかの森駅の南口にある森のまち広場ほどの規模ではないんですが、車が入ってこないで、広場として使える、或いはゆったりと使えるような空間を整備することで、とにかくもっと緑を増やして、南流山駅も都心から一番近い森のまちの玄関口と位置付けをして、再整備する方向で検討を進めています。期待していただければと思います。

それから、LRTですが、アメリカのヒューストンでLRTとか鉄道計画、バス計画等をやっていたんですが、一言で言うと、バスは1日に1,000人単位の利用者がいるところ、それからLRTは万人単位の利用者がいる所、それからTX或いは日本でいう鉄道というのは1日10万

人単位で利用者がいるところで成り立つものなんですね。

流山の場合は、住宅都市ということで、人口密度は市全体で大体平方キロメートルあたり6,000人で、密度がそれほど高くないのと、それからまだまだ自動車をもって移動する方の割合が高い、これは所得の面でもその車を持つ方の割合をやはり押し上げている傾向があると思うんですけども、そうすると、バス交通でも、流山の場合は、最短で30分或いは40分間隔でやってもやや赤字になってしまうというところですので、LRTを走らせて黒字にするほどの路線がない状況だと認識しています。

例えば、どこかのバスが大型バスを使って、3分、5分おきに走っているようなところについては、LRTに置き換えた方が、環境的にもいいんですけども、そういう状況ではないのと、1ヶ所でもLRTを敷設してしまうと、そこは固定されてしまうので、宇都宮の駅から東のほうへ工業団地があったり、大きなセンターがあって、そこにつながるという形であれば可能だと思うんですが、流山の場合は、物流センターの雇用も含めて、LRTには規模として小さいというふうに思います。

それからウェーブプール、サーフィンができるプールですけども、放っておくと渋滞が起こるくらいのは来るとは思いますけど、予約制で考えていらっしゃるようで、例えば、流山おおたかの森駅からバスが出るとか、それから、車で来る方も予約制ですから、四六時中渋滞になるということは多分ないので、LRTで運ぶほどの施設には、残念ながらならないというふうに考えています。

A 土木部長

先ほどの説明が不足しておりました。流山市は、予防保全型として5年に1度市内の道路を区画整理などで道路の引き継ぎを受けたものも含めて、約850キロあります。流山から青森県ぐらまでの直線距離の道路が市内にあり、管理しているんですが、それを5年に1度、AIを搭載した車両を高幅員な道路、幹線・補助幹線並びに、生活道路を種類に分けて、それぞれ点検しています。その点検の結果を受けて、先ほどありました保育施設、保育園だとか小学校周辺の児童生徒、またお子さんが通われるところを重点に、優先順位をつけて補修

をしています。また、先ほど市長からもありましたよう高齢者施設など市内に数多く点在するようになった関係で、その施設周辺においても、優先順位としては非常に高いです。

先ほどご指摘いただきました南流山のコールマンの前のところにつきましても、千葉県が管理する県道になります。流山市の5年に1度のパトロールの対象外のところになります。そちらの道路の状況につきましても千葉県東葛飾土木事務所が所管になりますので、10年以上放置されている事を共有したいと思います。

流山市はあくまでも事後対応ではなく予防保全型に現在努めています。今後とも道路の事でお気づきになられたところがあれば、お声としていただければありがたいです。

A 健康福祉部長

介護職の担い手を今後どうやって維持していくのか、確保していくのかというのは、非常に大きな課題だと私たちも思っています。

御案内のあった処遇の改善、市独自のところなんですけれども、月額9,000円の市独自の処遇改善を、ケアマネージャーと介護福祉士に制度として設けているということが1つございます。

ただ、もしかしたら条件がいくつかあるので、直接情報として届いてない可能性もあるかなと思うので、お伝えをしておきたいと思うのと、まずそういったことが、情報としてわかるような届け方が足りないのかなという気がすごくします。例えば、流山市は処遇改善があって、月額9,000円あるというふうなことが、もっとわかりやすい形で情報が手に取れたら、近隣で介護の仕事をしようと思っているけれども、どこの事業所に行こうかなと言った段階で選んでいただける確率というのが上がるのかなというのを改めて認識しました。

もう1つ御案内なのですが、いろんな自治体が介護人材確保という点で取り組みをやっているんですけれども、流山市でも「介護の仕事フェア」ということで、年に1回ではあるんですが、市内の事業者が参加して、また、介護の仕事をやろうかなと思っている方が参加し、直接その事業者の方と話ができるという「介護の仕事フェア」というものを行っております。

それから実際、入職していただいた後になると思うんですが、介護

と医療の連携促進ということで「介護と医療をつむぐ会」という会合を年4回設けておりまして、そこでも市内の介護事業者、医療に携わる方々が集まって、研修したりグループワークやったりという集える機会を設けています。

今御意見いただいたことで、「流山市は働きやすいよう処遇改善などがあるよ、仲間と繋がれるよ、保険者（市）にも話しやすいよ、研修とか集いも沢山あるよ。」というふうを選んでいただけるようなものをもっとわかりやすく発信しなければいけないなど改めて思いましたので、御意見本当にありがとうございました。

Q 市民

本日はこのような機会を設けていただきましてありがとうございます。

私からは、ヘルプマークを通じた相互理解のガイドラインづくりを提案したいと思います。私の母は持病があって、5年ほど前からヘルプマークをつけて生活をしています。ただ残念ながら、一部の方が優先席に座りたいがために、ヘルプマークを不正入手しているというニュースを目にしました。やはり煩雑な手続きがなく、誰でももらえるという点では非常にありがたかった一方で、やはり利用者側もマナーを守る必要があると感じています。

例えば、配布が1人1枚とか、不要になったヘルプマークは返却するといったルールを設けることで、そういうヘルプマークの価値を下げないような工夫をしていくという必要があると思います。

もう1つは、支える側の支援ガイドラインがあるといいと思います。マークは見たことがある人が多いとは思いますが、ただ具体的にどういう行動をすればいいかというのはなかなか行動に移すのは難しい点もあると思います。

市民ニーズというか、市民の方がどういう支援を必要としているかというのを1つのハンドブックにまとめるなどして、特に災害時に困った人に、市民の方々が自然と手を差し伸べられるような、そういった状況を作っていけたらというふうに感じています。

そういうことで、流山市が大人も子ども困っている人に当たり前のように手を差し伸べられるような、そういうまちになって、それが結

果的に災害に強いまちというふうにもなっていくと思いますので、強くてもやさしいまちに流山市がなっていってくれるととてもありがたいなと思います。

もしガイドラインを作成するという事で、こういった意見を出す場がありましたら、私も当事者の家族として、意見を出させていただければなと思っています。これからの流山市政に期待をしていますので、これからもどうぞよろしくお願いします。

A 健康福祉部長

おっしゃる通りと思います。

市の方で、そのヘルプマークの周知活動というのは、ホームページとかいろいろやってもいますけれどもやっぱりまだまだ、そのヘルプマークを見たときに、どういうふうにそれを受けとめるか、どういう行動に移せるか、あとは使う方も今御指摘あったような考え方とか、そういったものが課題としてあるのだと思います。これからもっともっと、実際にお困りの方がつけて本当によかった、助かったっていうふうに広げていくという意味で、いただいた御意見も、今日すぐにどれをやりますと即答できないんですが、担当課が障害者支援課になりますので、持ち帰りその辺をよく話していきたいと思います。

おっしゃっていただいた‘強くてやさしいまち‘、本当にコンパクトなフレーズなんですけれども、私も思います。それがひいては災害時に、より多く配慮を必要する方々にもちゃんと届くような施策ということを肝に銘じて進めていきたいと改めて認識しました。

以上